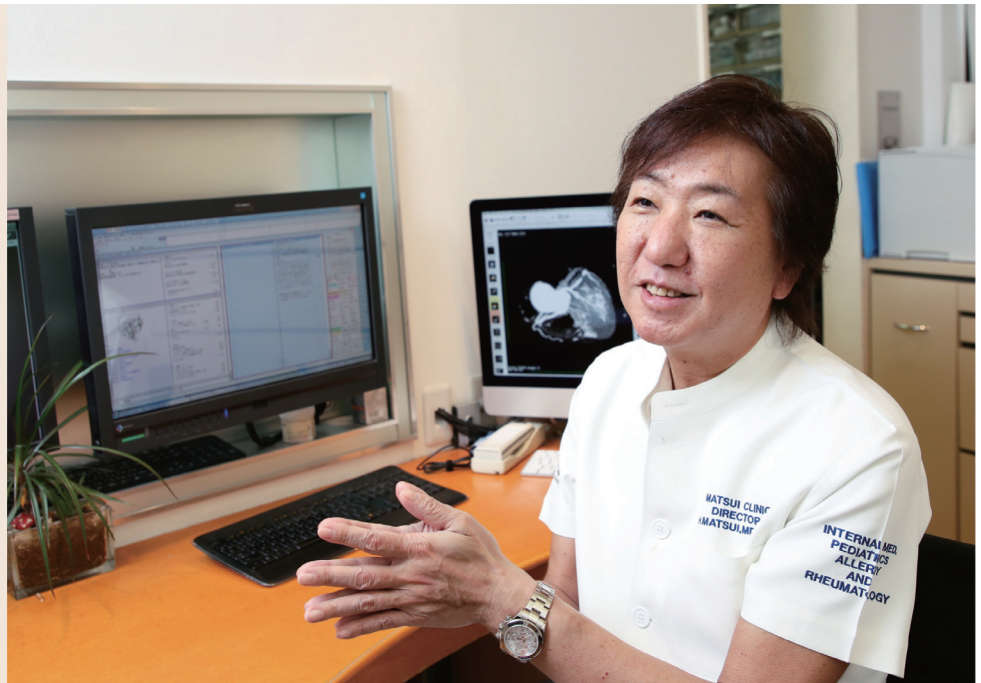


## 患者さんからの声

◆首や肩、脚などに痛みがあり、いくつか病院を回って検査を受けましたが原因が分からず、こちらを受診したところリウマチ性多発筋痛症と診断されました。適切な治療で症状が改善し、以前は家族に支えられなければ歩けなかったのが、自力で楽に歩けるようになりました。

◆長く皮膚科に通っても改善しなかった尋常性乾癬が、松井先生の治療を受けてすっかりキレイになりました。ずっと我慢していた温泉も楽しめるようになり、とても感謝しています。

◆スタッフさんの対応もとても丁寧。受診を忘れそうなきもスケジュール管理をしてくれて助かっています。

最新の医療知識と検査機器を駆使し  
診療科を超え広い見地で全身を診る

院長 日本内科学会認定総合内科専門医  
**松井 秀樹先生**

【まつい・ひでき】東京都出身。聖マリアンナ医科大学を主席で卒業後、同大学病院第一内科学教室に入局。同大学大学院卒業後はリウマチ・膠原病・アレルギー内科等において豊富な臨床経験を積む。平成8年4月に同大学講師に就任し、現在も非常勤講師を務めている。同年7月に開院。◆日本リウマチ学会認定リウマチ専門医 ◆日本アレルギー学会認定アレルギー専門医



医科大学を主席で卒業し、20年以上も母校での講師も務める松井先生。幅広い診療科に精通し、一般診療はもちろん専門的で高度な医療も提供している。

地元である吉祥寺で開院して、今年で22周年を迎えます。大学病院時代は、内科、内視鏡室、放射線科、透析室、救急救命センターなどで幅広く経験を積んできました。また、母校の難病治療研究センターの立ち上げにも携わり、多くの優秀な先生方とともに全国から訪れる難病患者さんの治療を行ったことは、大きな糧となっています。

若く見られることも多いですが、実は医師歴31年のベテラン。日本内科学会認定総合内科専門医、日本リウマチ学会認定リウマチ専門医、日本アレルギー学会認定アレルギー専門医、日本医師会認定産業医、身体障害者福祉法指定医（肢体不自由）といった専門医資格を有しています。現在は、培った経験と知識を活かし、一般内科をはじめ呼吸器、循環器、血液、腎臓、神経、感染症、リウマチ、アレルギーなどあらゆる疾患に対して専門的な診療を行っています。

最新の心電計や細径内視鏡  
検査データはデジタル一括管理

患者さんの健康を守るには、病気の兆候を早期に見出し、適切な治療につなげることが大切です。最新の検査機器など設備の充実力を入れ、鮮明な解像

度のカラー超音波診断装置や、24時間計測可能な世界最小・最軽量クラスのホルター心電計なども用意しました。心電計は入浴も可能な防水構造で、検査結果をわずか30秒ほどで解析できる装置も導入しています。

また胃内視鏡検査では、経口・経鼻の両方を備えたフルデジタル内視鏡システムを完備し、年間600件以上の検査を実施しています。従来のものより管の細い最新のスーパーCCD経口内視鏡も導入し、胃カメラの直径は経口用で8.7mm、経鼻用はわずか5.9mmです。ご希望に応じて鎮静剤を用い、ほぼ眠った状態での検査も可能。楽に受けられると、口コミやリピーターの方の来院も多いです。各種検査データはフルデジタルX線テレビシステムやデジタル画像診断システムと連動させ、X線、CT、MRI、MRA、超音波、内視鏡、心電図などの画像を一括管理。検査結果や過去の数値も診療室のモニターですぐに確認することができます。

リウマチ治療に地域随一の実績  
アレルギーにも専門的に対応

特に慢性疾患の場合は、長期的な治療や健康管理が必要となり、患者さんとの信頼関係がとても大切です。関節リウマチには、最新のバイオテクノロジーロジック技術で作られた生物学的製剤による治療を実施。投与経路を含めて9種類もの薬から、症状や



## さまざまな専門医資格を持つドクターと プロ意識の高いスタッフがチームで診療にあたる

最新の検査機器を備え、高度な医療を提供している同院。診療後の丁寧な説明、服薬指導や院内処方など、患者さんのことを第一に考えたチーム医療を展開している。



- 1 最新式のエコー（超音波診断装置）を導入。液晶のカラーモニターを搭載しており、全身のリアルな血流表示を観察できる。
- 2 スーパーCCD経口内視鏡。直径がわずか8.7mm（経鼻は5.9mm）と極細なのに、従来型のものよりも画質が向上。
- 3 自宅で24時間心電図を記録するためのホルター型心電計は超小型のものを採用。防水なので、入浴中も問題なくモニターできる。
- 4 エントランスから待合室、診察室にいたるまで、視線が気にならないよう動線に配慮された設計となっている。
- 5 長時間の点滴もリクライニング可能な電動チェアに座りながら受けられる。

### TOPICS

## リウマチ治療に新薬を導入し 治療の選択肢の幅を拡大

◆同院では関節リウマチ治療に力を入れ、生物学的製剤と同等の作用を持つ内服薬「ゼルヤンツ」による治療にも対応。さらに昨年は、新しい内服薬「オルミエント」も導入している。継続的な服用により身体の免疫異常に働きかけ、生物学的製剤での治療で十分な効果が得られなかった患者さんに、より多くの治療の選択肢を提供している。

◆内服薬である「ゼルヤンツ」や「オルミエント」にも生物学的製剤と同程度の副作用リスクがあり、定期的な受診や検査が必要。「治療には専門知識と経験を要するため、リウマチ専門医に相談を」と先生。

合併症、年齢、通院回数、経済的負担など、あらゆる角度から患者さんと一緒に最適な方法を検討し、組み立てていくオーダーメイドの治療を実践しています。これまで150名以上の方の治療を行い、これは多摩地区の一般診療所ではトップの実績です。生物学的製剤とほぼ同等の効果を持つ、新しい2種類の飲み薬も導入しました。

アレルギー治療にも力を入れ、ハチや食物、薬物アレルギーへのエピネフリン自己注射薬（エピペン®）処方にも対応しています。また、スギ花粉症への舌下免疫療法では、従来の液体の

薬に加え、今年からは錠剤による治療も可能になる予定です。

**院内処方や丁寧な説明など  
患者さん目線での医療を追求**

診療で心がけているのは、症状だけにとらわれず全身を診ることです。会話の中に隠れたキーワードがないか、患者さんのお話に真摯に耳を傾け、同時に治療の必要性や効果、リスクなどを丁寧に説明しています。そしてその想いをスタッフ全員が共有し、長期的な通院が必要な患者さんのスケジュール管理などを、それぞれが率先して行っています。昨年には常勤看護師

を4名に増員し、よりきめ細やかな対応が可能になりました。受診しやすさを追求して院内の設計にもこだわり、診療室の机や新しくなった入口のマットなども私がデザインしました。患者さんの負担を少しでも軽くしたいと考え、薬も院内処方としています。薬の飲み忘れ防止のため1回の服用分ごとの分包にも対応し、多くの好評の声に応えて分包器を増設しました。

診療のほか33歳から母校の講師を務め、現在も学生の指導にあたっています。そのためクリニックでの診療科以外にも最新の医療知識を吸収するなど、常



に自己研鑽に努めています。今でも医師国家試験の問題は8割以上正解できますし、学会や研修会にも積極的に参加しています。今後も幅広く専門的な医療を提供し、地域の健康を守り続けていきたいと思います。

## 松井クリニック

☎0422-20-1001

武蔵野市吉祥寺東町2-17-27  
http://www.matsui-clinic.org